

みちしるべ

みずからのために道しるべを置き みずからのために標柱をたてよ (エレミヤ31:21)

人になれ 奉仕せよ

聖句： 動かされないようにしっかり立ち、主の業に常に励みなさい。(コリント信徒への手紙Ⅰ 15:58)

保育目標：	0歳児	・保育者に見守られ、のびのびと全身を使って遊ぶ。
	1歳児	・季節を感じ、戸外で身体を使って楽しく遊ぶ。
	2歳児	・自分から友だちや保育者に関わって遊ぶ。 ・簡単な身の回りのことをやってみようとする。
	3歳児	・友だちと一緒に運動や遊びを楽しむ。 ・秋を見つける。
	4歳児	・みんなと一緒に運動や遊びを楽しむ。 ・どんなことでも一生懸命する。
	5歳児	・のびのびと運動や遊びを楽しみ、身体を強くする。 ・友だち同士協力して遊ぶ。

今年の夏は例年に比べ、暑さの厳しい日々でしたね。毎日の天気予報で晴れマークが続き、梅雨時期の事を思い起こせば嬉しさも感じつつ、高温が続くことに心配も重くなりました。

8月は園や家庭、それぞれの場ではいかがお過ごしでしたでしょうか。制限がある中でも充実したひとときがあったことと思います。毎日、職員の祈祷会の中で子どもたちの事、保護者の皆さんの事やそこに連なる様々な方の日々が守られるようにと、いつにも増して祈りを捧げる日々でした。健康が守られること、日常が与えられるこの恵みに、より感謝を感じる今年の夏です。

先日太陽が降り注ぐ中、園庭のやぐらの日陰で穴を掘っていた年長児N君。何気なく横を通り過ぎた時、「先生ごめんね、こども園から出るね。」と笑顔で一言。私はその言葉に疑問を感じながらも、「うん。」と頷きました。その後どうなったかと気になりつつ再びN君に近づくと「先生、やっぱり出ていくね。」とまた話しかけられました。「出ていってどういうこと。」と尋ねると、「えっとね、この穴を掘ってこども園を出ていくの。」とN君。よく聞くと穴を通ってお家に向かうのだそうです。その発想と行動(遊び)に魅了された私は、N君の穴から少し離れた所に穴を掘り始めました。すると興味を持ったK君もやって来てその穴掘りに加わりました。N君とK君の会話の中でさらに「穴を通ってお家に行き、〇〇を持ってその後京急鶴見駅に行く。」という展開が決まったようでした。「京急鶴見は〇〇があって、そこで〇〇レンジャーの…」と会話を楽しみながら掘り進めていくN君とK君。その横で私も「このまま〇〇に行ったら…」と想像しワクワクした気持ちで穴掘りをしていました。昼食の声が掛かってはひたすら掘り続けるK君と他の人に穴が見つからない方法を考えて穴掘りは一区切りつける事にしました。

その後出会うたびに「先生、出て行くの諦めたの？」と尋ねてくるN君。「諦めてないよ。鶴見に行くんだもんね。」と答えると、「秘密だよ。」とにこにこしながら応じてくれました。いつの間にか「諦めたの?」「いやいや、秘密だよ。」が合言葉のようになり、その様なやり取りが数日続きました。

「穴を掘って目的地に行く」という想像の世界と「京急鶴見」で実際に経験した事を織り交ぜ、それを人と呼応しながら展開していく「N君の遊び」の虜になっていた私でした。

穴を掘るN君に出会ったときに、「穴を掘って家に行くことは難しいかな。」と心のどこかで現実的に考えてしまっていたらきっとこの遊びを共に楽しむ事はできなかつただろうと自分自身に感じました。年長になり段々と、想像の世界より現実のことを頼りに生活する事が多くなっていく発達段階の中であっても、今回の遊びのように想像する事を心から楽しめるN君の豊かさを感じました。また後から遊びに加わったK君も自然にその遊びに加わり、否定や断定する事なくN君の世界を共有していた姿に2人の関係性の心地良さも感じました。「やっぱり子どもの世界って素敵!面白い!」と頷いた瞬間です。子どもの傍らに立つ者として小さな遊びの種をこれからも大切に見つめていく保育者でありたいと思います。

まだまだ心配な社会状況が続きますが、子どもたち一人ひとりに、またそれぞれのご家庭の上に神さまからの恵みが豊かにありますようにと心より祈ります。